

◇子どもの読書活動を推進するための方策

平成23年度の取組		平成23年度の取組結果	
①保護者への働きかけ	区分	課・機関名	内容
(保育課) ○保育課、区健康福祉課、保育園等で絵本についての研修会を企画する。 ○保育園から保護者に対して、読み聞かせによる絵本の楽しさ、豊かさを伝えたり、園行事や園の便り等の機会を捉えて啓発する。	継続	保育課	○保育園から保護者に対して、保育園図書貸し出し等の機会を活用し、読み聞かせによる絵本の楽しさ、豊かさを伝えたり、園行事や園の便り等の機会を捉えて啓発を行った。
(こども未来課) ○市民協働で運営しているホームページ・携帯サイト「にいがたっ子ひろば」で子ども読書活動の推進について適宜情報を掲載する。	継続	こども未来課	○市民協働で運営しているホームページ・携帯サイト「にいがたっ子ひろば」で子ども読書活動につながる情報を掲載し、保護者への周知・働きかけを行った。(掲載件数H23.4～H24.2:104件)
(各区健康福祉課) ○股関節検診と1歳6カ月検診・3歳児検診時に図書館ブックリスト「はじめての絵本」を配布し読み聞かせの啓発普及を行なう。(年間511回) ○地域保健福祉センターでは自主事業による「親と子のフリースペース」に年3回、「スマイルキッズ」に年2回、ボランティアグループ「絵本の会がらがらどん」による絵本の読み聞かせなどを実施し保護者に読み聞かせの大切さを体感してもらう。 ○児童センター、子育て応援ひろば等では読み聞かせを実施する際、同伴の保護者にも読み聞かせの大切さを伝える。(各施設月1～2回実施)	継続	各区健康福祉課	(各区健康福祉課) ○股関節検診と1歳6カ月検診・3歳児検診時に図書館ブックリスト「はじめての絵本」を配布し、読み聞かせの啓発普及を計画通り実施した。(年間511回) ○地域保健福祉センターでは自主事業による「親と子のフリースペース」に年3回、「スマイルキッズ」に年2回、ボランティアグループ「絵本の会がらがらどん」による絵本の読み聞かせなどを計画通り実施し、保護者に読み聞かせの大切さを体感してもらった。 ○児童センター、子育て応援ひろば等では読み聞かせを実施する際、同伴の保護者にも読み聞かせの大切さを伝えるなど、計画通り実施した。(各施設月1～2回実施)
(生涯学習課) ○ホームページ(体験学習情報ナビ)を活用し、子ども読書活動に係る様々な体験情報を充実させ、市民に提供する。 ○大畑少年センターや若者支援センターにおいて図書館事業や子ども読書活動の啓発チラシを設置し、啓発に努める。	継続 新規	生涯学習課	○図書館への関心が高まるよう、図書館主催事業を体験学習情報ナビに掲載して、周知に努めた。 ○大畑少年センターや若者支援センターにおいて、図書館のBメールや各種チラシ等を設置し、啓発に努めた。
(公民館) ○乳幼児期の家庭教育学級の講座の中で、「絵本」に関する時間を設ける。	継続	公民館	○乳幼児期家庭教育学級の講座の中で、「絵本」に関する時間を設けた。(8館)
②ブックスタート事業の実施	区分	課・機関名	内容
(保健所健康増進課・各区健康福祉課) ○ブックスタート事業の円滑な実施のため、協力体制について関係課とともに具体的な調整・検討を行う。	継続	健康増進課 各区健康福祉課	○ブックスタート関係者会議に出席し、協力体制について確認した。 ○母子健康手帳にブックスタートの意義を掲載し、啓発を行った。
(図書館) ○平成23年度は、ブックスタートを約6,600人を対象に1歳誕生歯科健診が行われる17会場で198回実施予定。 ○ブックスタート開始記念講演会を10月10日に開催する。 ○ブックスタートの評価のために外部委員会を開催する。 ○ブックスタートボランティア養成講座、ステップアップ講座を実施する。	新規 新規 継続	図書館	○ブックスタートは1歳誕生歯科健診が行われる17会場で171回、5,134名に実施した。 ○ブックスタート開始を記念して、10月10日に細谷亮太氏(聖路加病院副院長)の講演会を開催した。 ○ブックスタートの評価のための外部委員会は設けず、来年度5つの図書館協議会の中で評価を行う。 ○ブックスタートボランティア養成講座(2回連続講座)を中央・新津・白根・西川で各1回ずつ、ステップアップ講座を1回実施した。
③図書館の充実	区分	課・機関名	内容
(図書館) ○ブックスタート開始に合わせ、赤ちゃん絵本コーナーや、乳幼児向けの「おはなしのじかん」の充実に努める。 ○保護者が乳幼児を連れて来館しやすいように館内の雰囲気づくりに力を入れる。	継続	図書館	○乳幼児向けの「おはなしのじかん」の充実に努め、217回実施した。 ○乳幼児向けコーナーの設置・拡充、ブックスタートコーナーやおすすめ絵本リスト紹介コーナーの設置、ベビーカーの設置など、乳幼児の利用拡大に向けた取り組みを行った。 ○中央図書館のこどもとしょかんで、乳幼児が親しみをもちやすいような掲示や飾り付けを2回行った。

①保育園・幼稚園への啓発		区分	課・機関名	内容
2 保 育 園 ・ 幼 稚 園	(保育課) ○保育園におけるボランティアのリストを作成し提供する。 ○園行事や園だより等を通して、啓発や情報提供を行う。 ○図書館の団体貸出の活用や年齢に応じた絵本のリストなどについて情報の提供を行う。	継続	保育課	○保育園におけるボランティア活動の調査を実施しリストを作成し配布済。 ○園行事や園だより等を通して、啓発や情報提供を行うよう指導した。 ○図書館の団体貸出の活用や年齢に応じた絵本のリストなどについて情報を園長会等を通じて提供した。
	(こども未来課) ○図書館が発行する絵本のブックリスト、子どもと読書に関する啓発リーフレット等や、保護者向け講演会の講師派遣など、図書館が行っている支援について、新潟市私立幼稚園協会へ情報提供を行う。	継続	こども未来課	○図書館が発行する絵本のブックリスト、子どもと読書に関する啓発リーフレット等や、保護者向け講演会の講師派遣など、図書館が行っている支援について、新潟市私立幼稚園協会へ文書で情報提供を行い、同協会から市内43の私立幼稚園にその旨周知された。
	(学校支援課) ○園訪問や園長会等を通して、保護者への啓発と幼児期に読ませたい絵本の充実に関する現状を把握し、課題に応じて指導・助言を実施する。	継続	学校支援課	○園訪問や園長会等で、読み聞かせ等幼児期に本に親しませることの重要性を保護者に伝えるよう依頼するとともに、絵本の充実に関する現状について聞き取り、指導・助言を行った。
	(図書館) ○図書館が行う事業について各保育園や幼稚園に情報提供を行う。 ○園向けの図書館利用案内を作成送付し、図書館の積極的な利用を促す。 ○園の要請により、園で開催する保護者向け絵本講座に講師を派遣する。	継続	図書館	○児童や親子を対象とした事業のチラシを、各保育園や幼稚園に年2回配付し情報提供を行った。 ○園向けの図書館利用案内を作成し送付予定(3月中) ○園の要請により、園で開催する保護者向け絵本講座に講師を派遣した。(7回)
②地域読書推進事業		区分	課・機関名	内容
(保育課) ○すべての子どもたちに対し、乳幼児期から本に慣れ親しむ機会を提供するため、市内の各園等に絵本を配付し、貸出・検索システムを稼働する。(参加施設数:保育園179園、幼稚園36園、地域子育て支援センター34施設) ○平成23年4月1日以降開設の施設へ絵本を配布する。	拡充	保育課	○各施設に絵本を配付し、貸出・検索システムを稼働させた。 ○運用開始:平成23年6月から ○参加施設数:保育園180園、幼稚園36園、子育て支援センター34施設 計250施設 ○配布総冊:63,350冊 ○貸出実績(延貸出回数):25,667回 (H24.2月末現在)	
③職員研修		区分	課・機関名	内容
(保育課) ○保育関係施設職員を対象とした「絵本」に関する研修会を開催する。	継続	保育課	○保育課主催で、絵本に関する保育園合同研修会を万代市民会館において、平成23年10月4日・10月18日の計2回実施し、参加者は288名であった。 ○区健康福祉課主催で絵本に関する保育園研修会を平成23年11月16日実施し、参加者は45名であった。	
(こども未来課) ○図書館が行っている研修企画への支援や講師派遣等の支援についての情報を、新潟市私立幼稚園協会へ提供し、幼稚園での職員研修実施を働きかける。	継続	こども未来課	○図書館が行っている研修企画への支援や講師派遣等の支援についての情報を、新潟市私立幼稚園協会へ提供し、同協会から市内43の私立幼稚園にその旨周知された。	
(学校支援課・総合教育センター) ○市立幼稚園における講座や研修の企画や講師選定・派遣等についての支援を行う。	継続	学校支援課 総合教育センター	○市立幼稚園の要請により、講座や研修の企画や講師選定・派遣等についての支援を行った。	
(図書館) ○園の要請により、講師派遣や講師紹介を行う。	継続	図書館	○園の要請により、講師派遣や講師紹介を行った。(3回)	

①教職員研修		区分	課・機関名	内容
3 学 校	(教職員課) ○昨年の校長会全体研修会を受け、今後は新任校長研修会や区の校長会などを通して周知を図り、子どもの読書推進計画の実効性を高めたい。	新規	教職員課	○校長会の理事会を通して、子どもの読書活動の推進について啓発を行った。
	(総合教育センター) ○新学習指導要領の趣旨を踏まえ、国語科の指導事項に加わった「読書」に関する事項の実践例と評価に関する研修を、文部科学省教科調査官を招き、演習を加えた講座を実施する。	継続	総合教育センター	○「読書活動の充実」研修と題して、10月12日(水)に文部科学省の水戸部修治調査官を講師に招き、講義と演習を行った。受講者は、「本のショーウィンドウ」をつくる活動を通して、「目的をもった読書の大切さ」と「付けたい力と読書活動の関係性」について深く学ぶことができた。
	(教育総務課・学校支援課) ○平成22年度から学校図書館の蔵書管理システムを順次、導入を進めていることから、学校夏季休業中を利用して導入校の司書向けにシステム操作研修を実施する。	継続	教育総務課 学校支援課	○蔵書管理システム研修を実施(8/23・24ステップアップ研修、11/2導入時研修、2/28・29新年度に向けた研修)
	(学校支援課・総合教育センター) ○授業研修において読書力を高める指導を実施する。 ○市小研(新潟市小学校教育研究協議会)・中教研(新潟市中学校教育研究協議会)の図書館部の研修を支援する。	継続	学校支援課 総合教育センター	○授業研修において、言語活動の充実という観点から、読書力を高める指導を重視することを指導した。 ○市小研・中教研の図書館部の依頼により、研修の支援を行った。
	(総合教育センター・図書館) ○平成22年度に実施した総合教育センターとの共催事業、教諭と学校司書の合同研修「学校図書館活用研修会」を、平成23年度は白根図書館学校図書館支援センターが総合教育センターとの共催事業として実施する。(7月27日) ○新たに西川図書館と総合教育センターの共催で、「教諭と司書連携研修会」を開催する。(8月22日)	継続	総合教育センター 図書館	○白根図書館学校図書館支援センターと総合教育センターの共催事業として、教諭と学校司書の合同研修「学校図書館活用研修会」を7月27日に開催した。 ○西川図書館学校図書館支援センターと総合教育センターの共催で、「教諭と司書連携研修会」を8月22日に開催した。
②読書環境の整備		区分	課・機関名	内容
3 学 校	(教育総務課) ○29校に学校図書館蔵書管理システムを導入する。	継続	教育総務課	○H23年度は29校に学校図書館蔵書管理システムを導入した。(昨年度との合計131校に導入)
	(学務課) ○本年度末までに全小中学校が学校図書館図書標準を達成するよう、国の交付金を活用した学校図書館整備事業を行い、学校図書館図書の充実を図る。	継続	学務課	○内容のとおり実施した。その結果、3月末までに小中学校全校の学校図書館図書整備率100%を達成する見込み。
	(施設課) ○校舎改築時に必要な広さの学校図書館と併せ司書コーナーの整備を進め、供用を開始する。(供用開始：新関小、荻川小、/建設：下山小、沼垂小、笹口小、金津小、新津第一中、臼井中、岩室中)	継続	施設課	○新関小学校、荻川小学校は4月に供用を開始した。 ○校舎改築工事により学校図書館の整備を行っている。(下山小、沼垂小、笹口小、金津小、新津第一中、臼井中、岩室中)
	(総合教育センター) ○「新潟市生活・学習意識調査」(全小学校5・6年、中学生すべてを対象)において、昨年度までの「1か月の読書冊数」に、新たに「読書は好きか」を加え、2項目を調査する。その結果を基に、簡単な追跡調査等を行って、12月末に調査結果活用研修会を実施し、中学校区における読書推進策を協議検討する。	継続	総合教育センター	○子どもたちの読書の実態をより正確に捉え、読書活動推進に生かしてもらうために、1か月で読んだ本の冊数の選択肢を<5冊以上・3~4冊・1~2冊・0冊>→<10冊以上・7~9冊・6~4冊・3~1冊・0冊>と変えた。そして、その結果を市内各図書館に配布し、伝達した。 ○今年度は、「確かな学力の向上」と「授業改善」に絞って協議したため、中学校区における読書推進策については協議しなかった。ただし、読書については自校で分析できるように「分析シート」を提示し、取組を促した。また、「増えています！読書を楽しむにいがたっ子！」と題して、これまでの数値の変化と、読書活動推進の取組を「にいがた共育通信第21号(6月30日発行)」に寄稿した。
	(学校支援課) ○教育課程編成資料作成の際等に、各校の全体計画や単元指導計画に学校図書館の活用を位置づけるよう指導する。 ○学校訪問、校長会、教頭会、各種研修会等を通して、保護者への啓発の重要性を指導する。 ○市立高校において、学校訪問、校長会、各種研修会等を通して、高校生の読書力増進に向けた取組や図書館の環境整備について指導する。 ○総合教育センターが行う読書量調査の結果を、家庭学習習慣と絡めてリーフレットにして配付する。	継続	学校支援課	○学校支援課で作成した教育課程編成資料において、学校図書館の活用等の内容を位置付け、自校化の資料とするよう指導した。 ○学校訪問、校長会、教頭会、各種研修会を通して、家庭学習習慣確立の取組と併せて家庭での読書について保護者への啓発を図るよう指導した。 ○市立高校において、学校訪問、校長会、各種研修会を通して、高校生の読書力増進に向けた取組の推進と図書館の環境整備についての指導を行った。 ○総合教育センターが行った読書量調査の結果を家庭学習習慣確立のリーフレットに記載し配付した。

(図書館) ○「学校貸出図書搬送事業」の周知を図り、利用の促進をすすめることで、学校の学習活動への支援を充実させる。搬送対象校を市立小・中・高および特別支援学校に加え、市内県立高校、私立高校に拡大する。(190校→221校)。併せて貸出冊数を100冊から150冊に増やし、貸出期間の延期(予約がない資料の2週間延期)を試行する。(H23.6.23～H24.2.29)	拡充	図書館	○「学校貸出図書搬送事業」の搬送対象校を市立小・中・高および特別支援学校に加え、市内県立高校、私立高校に拡大した(190校→219校)。併せて同時に貸出できる冊数を100冊から150冊に増やし、貸出期間の延期(予約がない資料の2週間延期)を試行した(H23.6.23～H24.2.29)結果、小・中・高校それぞれからの利用があり、便利であるとの声が寄せられている。
③学校図書館支援センターの整備	区分	課・機関名	内容
(教育総務課) ○学校図書館支援センターの活動全体を審議するため、学校図書館支援センター運営検討委員会を開催する。	継続	教育総務課	○2月28日(火)に開催した。(中央図書館学校図書館支援センター運営協議会とあわせて開催)
(図書館) ○中央図書館に新たに支援センターを設置し、4つの支援センターで市内全域を対象とした支援事業を展開する。併せて中央図書館学校図書館支援センターが全体の取りまとめをし、支援センター間で意見交換・相互理解・事業調整を図る(合同会議の開催等)。	拡充	図書館	○4つの支援センターで、市内全域の小中学校の学校図書館の活動への支援を行った。 ○4つの支援センター間で、意見交換・相互理解・事業調整を図るため、合同会議と担当者会議をそれぞれ4回開催した。
④読書活動に障がいがある子どもへの支援	区分	課・機関名	内容
(図書館) ○布絵本、大活字本、LLブック(※)等を受入れ・整備し提供する。 (※知的障がい・自閉症・失語症・読み書き障がい・聴覚障がいがある人など、読むことが難しい人に読みやすく分かりやすく書かれた本。明瞭な文体や語句が使われ、字が読めなくても楽しめるように絵や写真が多く使われている。) ○布の絵本や拡大写本等を紹介する「世界のバリアフリー絵本展inほんぼーと」を12月に開催する。	継続 継続	図書館	○中央図書館では、「24時間テレビ」チャリティー委員会から、障がい者サービス用物品(拡大読書機1台・DAISY再生専用機3台・LLブック20冊・子ども向け大活字本31タイトル54冊)の寄贈を受け、障がい者サービスが充実した。 ○西川図書館では、LLブックを29冊そろえた。 ○中央図書館だけで実施していた「対面朗読サービス」を、12月から豊栄・新津・白根・西川図書館でも開始した。(拡充) ○「世界のバリアフリー絵本展」は企画団体である「JBBY世界のバリアフリー絵本展実行委員会」の都合により、開催できなかった。(H24年度実施予定)
⑤地域との連携	区分	課・機関名	内容
(教育総務課) ○実施可能な小学校等で学校図書館の地域開放を実施する。	継続	教育総務課	○全市で、62校が夏休み中に学校図書館の地域開放を行った。(H22年度は35校)
(地域と学校ふれあい推進課) ○地域と学校パートナーシップ事業実施校(139校)において ・(新規校)学校図書館ボランティアのニーズの有無を把握する。 ・ニーズがある学校において、地域教育コーディネーターがボランティアを紹介する。 ・中学校区内で学校図書館ボランティアについての情報を共有する。	継続 継続 新規	地域と学校 ふれあい推 進課	○学校のニーズに応じて、地域教育コーディネーターが読み聞かせボランティアや図書館整備ボランティアを紹介した。 ○読み聞かせボランティアが入った回数は、平成22年度の812回に対し、平成23年度は1,674回であり、倍増した。(平成23年度地域と学校パートナーシップ事業実施校の平均回数:小学校15.3回、中学校4.6回) ○読み聞かせボランティアのべ人数は、平成22年度の3,094人に対し、平成23年度は4,938人であり、約60%の増であった。 ○電算化に伴う蔵書整理やバーコード貼り、図書の修繕等で多くのボランティアの支援を得た。 ○中学校区内の小・中学校間でボランティアを紹介し合うなど、連携した取組が多くみられた。
(図書館) ○学校の要請により、学校が実施する「絵本の読み聞かせ講座」に講師派遣や講師紹介を行う。	継続	図書館	○小学校が実施する「絵本の読み聞かせボランティア研修会」に職員を10回派遣した。(講師紹介はなかった)
⑥学校図書館関係課の連携	区分	課・機関名	内容
(図書館) ○「学校図書館関係課・機関連絡会議」を3回開催する。	継続	図書館	○「学校図書館関係課・機関連絡会議」を7月7日と3月15日に開催し、学校図書館支援について連携を深めた。

(1) 図書館			
①施設・設備・蔵書の充実	区分	課・機関名	内容
(図書館) ○7月1日に西堀ローサ内に「ほんぽーとまちなかサテライト」を、9月20日には東区に「東区プラザ図書室」を開室する。また、「アルザ新潟情報図書室」を10月にオンライン化し、9月1日には巻図書館を開館する。 ○学校図書館支援のための資料や図書館が作成したブックリスト掲載の図書の充実に努める。	拡充	図書館	○計画通り各施設を開館し、市内19の図書館と4つの図書室をオンライン化し、利用者の利便性を図った。また、図書館のPRスペースとして7月1日に開室した「ほんぽーとまちなかサテライト」は、1日平均55人が利用した。 ○中央・豊栄・白根・西川図書館に「学校図書館支援センターコーナー」を設置し、市立小学校使用教科書と国語関連図書約400冊を学年ごとにそろえた。
②子どもと本を結ぶ事業の開催	区分	課・機関名	内容
(図書館) ○全館で、職員及び読み聞かせボランティアによる「おはなしのじかん」を実施する。 ○子どもの読書活動を進めるため、ボランティアグループとの共催事業を積極的に開催する。 ○ほんぽーとのこどもとよかんをより活性化するため、シンボルマーク「るーぼん」の活用を進める。 ○保護者向けの保育付き絵本講座を開催する。	継続	図書館	○全館で、職員及び読み聞かせボランティアによる「おはなしのじかん」を1,267回実施した。 ○子どもの読書活動を進めるため、ボランティアグループとの共催事業を23回開催した。 ○「るーぼん」の紹介カードを4種類作成し、読書週間事業等に活用した。また、「るーぼん」のシールを1,600枚作成し冬休み事業に活用した。 ○保護者向けの保育付き絵本講座を2回開催した。
③ティーンズ世代へ	区分	課・機関名	内容
(図書館) ○中学・高校に対して団体貸出、職場体験の受入等を行う。 ○ティーンズ向けの広報誌を作成・配布する。 ○ティーンズ向けの読書会を開催する。	継続	図書館	○中学・高校に対して団体貸出(8,531冊)、職場体験の受入(265人)を行った。 ○ティーンズ向けの広報誌を9回作成し、中学・高校に配布した。 ○ティーンズ向けの読書会を2回開催し、6人が参加した。
④学校や保育園などへの支援	区分	課・機関名	内容
(図書館) ○職場体験や図書館見学を積極的に受入れる。 ○園や子育て支援センターで開催する絵本の講座に講師を派遣する。 ○図書館が推薦する絵本のブックリストや小学生向けのブックリストを全館で配布する。 ○小中学校や放課後児童クラブ等ヘリサイクル図書を配布する。	継続	図書館	○職場体験を26回265人、図書館見学74回2,569人受け入れた。 ○園や子育て支援センターで開催する絵本の講座に、講師として図書館司書を7回遣した。 ○図書館が推薦する絵本のブックリストを改訂し、全館で配布予定。(3月) ○小中学校や放課後児童クラブ等ヘリサイクル図書を1,245冊配布した。
⑤ボランティアとの連携・支援	区分	課・機関名	内容
(図書館) ○読み聞かせボランティア養成講座を区の中心図書館で実施する。 ○読み聞かせ等ボランティアの交流会を実施する。 ○読み聞かせ等ボランティア自主研修会と共催で研修会を実施する。	継続	図書館	○読み聞かせボランティア養成講座を区の中心図書館で4回実施し、34人のボランティアを養成した。 ○読み聞かせ等ボランティアの交流会を3回実施した。 ○読み聞かせ等ボランティア自主研修会と共催で7月24日と11月23日に研修会を実施した。

域			
(2) 公民館・地域子育て支援センター等			
① 公民館事業等の充実	区分	課・機関名	内容
(文化政策課) ○新津美術館で世界の絵本作家展Ⅲ「絵本の世界へ旅しよう」を2011年7月23日～10月10日に開催し、海外作家6人国内作家5人の絵本原画約200点を展示する。	継続	文化政策課	○観覧者数:9,516人 ○関連イベントの読み聞かせ8回実施し、計228人が参加した。
(障がい福祉課) ○市立ひしのみ園(知的障がい児の通園施設)での日中活動において、読み聞かせを実施する。	継続	障がい福祉課	○毎日の療育の中で季節に応じた絵本、生活に関する絵本など、繰り返し読み聞かせを実施した。子どもたちは絵本に集中して、絵や言葉を楽しむことができたし、次に何が出てくるか期待して待つ様子が見られた。
(国際課) ○8月27日(土)新潟市国際交流協会によるキッズフェスティバルを開催する。プログラムの一つとして読み聞かせを行う。1時間に2～3カ国の外国の本を国際交流員と絵本の会どんぐりが読み聞かせる。日本語で先に読み、次に翻訳されている物を読む。日本語で最初読むので、外国語の翻訳絵本を読んでも内容を理解でき発音の違いを楽しむことができる。	継続	国際課	○8月27日(土)、新潟市国際交流協会によるキッズフェスティバルをクロスバルにいがたで開催した。新潟市国際交流員が主体となり、プログラムの一つとして5カ国の外国の絵本の読み聞かせを行った(英語、中国語、韓国語、ロシア語、フランス語)。絵本の会どんぐりが先に日本語の絵本を読み聞かせ、次に翻訳されている絵本を読んだ。参加した子どもたちは発音の違いがわかり、その国の文化に触れることもできた。
(各区健康福祉課) ○児童センター、子育て応援ひろば等では読み聞かせを実施する際、同伴の保護者にも読み聞かせの大切さを伝える。(各施設月1～2回実施)(再掲)	継続	各区健康福祉課	○児童センター、子育て応援ひろば等では読み聞かせを実施する際、同伴の保護者にも読み聞かせの大切さを伝えるなど、計画どおり実施した。(各施設月1～2回実施)
(公民館) ○親同士の交流や情報交換の場である「子育てサロン事業」等で、ボランティアによる絵本の読み聞かせの時間を設ける。 ○ボランティア団体の協力による「おはなしのせかいへ」等、絵本の読み聞かせ事業を実施する。	継続	公民館	○「子育てサロン事業」で、ボランティアによる絵本の読み聞かせの時間を設けた。(6館) ○ボランティア団体の協力による「おはなしのせかいへ」等、絵本の読み聞かせ事業を実施した。(6館)
② 蔵書の充実や事業への支援	区分	課・機関名	内容
(こども未来課) ○子どもと読書に関する啓発リーフレットの設置やポスターの掲示をし、情報提供を行う。	継続	こども未来課	○春の読書週間に合わせて、ポスターを各放課後児童クラブ(ひまわりクラブ等)に掲示し、情報提供を行った。 ○一部の放課後児童クラブ(ひまわりクラブ等)に読み聞かせボランティアを招いて、本に触れる機会を持たせた。
(地域と学校ふれあい推進課) ○地域教育コーディネーター研修会や子どもふれあいスクール運営主任研修会で、図書館の取組を紹介する。	継続	地域と学校ふれあい推進課	○全体研修の場では紹介はしなかったが、各校において学校図書館支援センターとの連携が推進された。
(保育課) ○すべての子どもたちに対し、乳幼児期から本に慣れ親しむ機会を提供するため、市内の各園等に絵本を配付し、貸出・検索システムを稼働する。(参加施設数:保育園179園、幼稚園36園、地域子育て支援センター34施設)(再掲) ○平成23年4月1日以降開設の施設へ絵本を配布する。(再掲)	拡充	保育課	(再掲) ○各施設に絵本を配付し、貸出・検索システムを稼働させた。 ○運用開始:平成23年6月から ○参加施設数:保育園180園、幼稚園36園、子育て支援センター34施設 計250施設 ○配布総冊:63,350冊 ○貸出実績(延貸回数):25,667回 (H24.2月末現在)
③ ボランティアの活動	区分	課・機関名	内容
(公民館) ○「子育てサロン事業」等におけるボランティア活動を支援する。ボランティア団体と企画会議を開催し、協働事業を実施する。	継続	公民館	○「子育てサロン」における絵本の読み聞かせ事業について、ボランティア団体と企画会議を開催し、協働で実施することにより、ボランティア活動を支援した。(2館)

◇計画推進のために

1 数値目標

指標項目	担当課	平成20年度末（実績値）	平成23年度末（目標値）	平成26年度末（目標値）
① 学校図書館図書標準を達成している小中学校の割合（達成校率）	学務課	小学校 61% 中学校 54%	小学校 100% 中学校 100%	小学校 100% 中学校 100%
② 市立図書館における小中学生（7歳～15歳）への本の貸出冊数	中央図書館	460,000冊	506,000冊	531,000冊
③ 市立図書館における児童書の貸出冊数	中央図書館	1,056,000冊	1,162,000冊	1,220,000冊

2 広報・啓発

平成23年度 of 取組		平成23年度 of 取組結果	
①子どもの読書活動についての啓発	区分	課・機関名	内容
(図書館) ○図書館のホームページで「新潟市子ども読書活動推進計画」の取り組みを紹介する。 ○「ほんぼーとまちなかサテライト」内に、子どもの読書活動推進のため、おすすめの絵本やポスター・チラシ等を設置する。 ○ブックスタートについて市民への周知を図るため、引き続き、関係機関や報道機関への広報に努める。 ○ブックスタート開始記念講演会を10月10日に開催する。(再掲) ○4つの学校図書館支援センターの利用案内を各学校に送付するとともに、区の校長会等を通してPRに努める。	継続 新規 拡充	図書館	○図書館のホームページ内「新潟市子ども読書活動推進計画」の項目で、市の取組を紹介した。 ○「ほんぼーとまちなかサテライト」内に、おすすめの絵本120冊と、絵本のブックリストを設置した。 ○ブックスタートについて市民への周知を図るため、股関節検診実施時のパンフレット配布を健康福祉課に依頼した。また、区だよりや「にいがた共育通信」、「クルール」(子育て情報誌)に記事掲載し、テレビ・ラジオ等のマスコミを通じての広報にも努めた。 ○ブックスタート開始を記念して、10月10日に細谷亮太氏(聖路加病院副院長)の講演会を開催した。(再掲) ○4つの学校図書館支援センターの利用案内を各学校に送付するとともに、教育事務所や区の校長会等でセンターの取組をPRした。
②文学創作活動の啓発	区分	課・機関名	内容
(文化政策課) ○「にいがた市民文学」で18歳以下を対象とした「青春の部」を継続実施する。	継続	文化政策課	○昨年よりも9作品多い176作品の応募があった。

3 推進体制

平成23年度 of 取組		平成23年度 of 取組結果	
①計画の推進組織の設置	区分	課・機関名	内容
(図書館) ○新潟市子ども読書活動推進計画庁内推進会議を2回開催する。 ○「学校図書館関係課・機関連絡会議」を3回開催する。(再掲)	継続	図書館	○新潟市子ども読書活動推進計画庁内推進会議を7月7日と3月15日に開催し、新潟市の取組について情報交換を行った。 ○「学校図書館関係課・機関連絡会議」を7月7日と3月15日に開催し、学校図書館支援について連携を深めた。(再掲)